

JA全農えひめ情報

みみずく

■特集

J Aグループの28年産米集荷・販売の取り組み

9

2016・September



愛媛の酒蔵めぐり

15

仁喜多津



水口酒造株式会社

代表銘柄
創業
代表者
住所
TEL

仁喜多津
1895年（明治28年）
代表取締役社長 水口 義継
松山市道後喜多町3-23
089-924-6616

- ▲(右) 愛媛県産のしずく媛を使った統一銘柄「仁喜多津 しずく媛 純米吟醸酒」
- (中) 道後で詠まれたという額田王の和歌より名を頂く「清酒 月待者（つきまてば） 純米酒」。県産松山三井を使用
- (左) 「道後ビール」は、愛媛が全国一の生産量を誇るはだか麦が原料

水口酒造は道後温泉本館開業の翌年・明治28年に、創業。銘柄「仁喜多津」は、万葉集で松山が「熟田津」と詠まれたことに由来しています。道後生まれの酒は伝統と技を大切に、味へのこだわりは変わることがありません。仕込み水は熟田津の良水を使用、米は県産の松山三井としずく媛を中心に。醸（もろみ）は全酒ともジャケット式タンクで温度管理した仕込みで、安定品質を維持しています。搾りは圧力をかけると酒量が増える分、雑味が増すため、搾り圧は控えめ。特に大吟醸は6割の酒粕を残す贅沢な搾りで雑味のないきれいな香の酒となります。目の届く少量を丁寧に造り、米の旨味の残るすっきりとしたやさしい旨口、瀬戸内の食材を引き立てる主張すぎない味わいです。

平成8年、水口酒造は日本酒低迷期に危機感を抱き、ビール業界に参入します。それは社訓「暖簾を守るが、同時に道後活性化への周囲の願いでもありました。道後ビールは「湯あがりビール」として成功。原料には県産はだか麦を加え、引き続き「わが町」アピールの岩城島ライム、久万高原町トマトでビールを！と話が持ち込まれます。焼酎でも松山長なすや松山一寸をアピールしていきます。創業から121年、道後と歩み、暖簾を守ってきた根底には信念ある酒造りの心が脈づいています。



▲水口社長「道後から全国に愛媛県の魅力を発信していきたい」

▶道後の景観に調和した純和風建築の店舗兼主屋は、1917年（大正6年）建築の木造2階建て。現在、登録有形文化財に答申中

あぐり〜ど

September 2016

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



秋の休日。軍手に帽子、トンゴに竹カゴと、万全の態勢を整えて、いざ！栗拾いへ。みんなで地面にいっぱい落ちてい
る栗を拾いましょう。大きいイガを自慢
げにみんなに見せている子、それを見て
おっかなびっくりの子、こわごわと拾っ
ている子と、様々です。さあ、たくさん
栗がとれました。今夜のたっぷり栗料理
が楽しみです。

●表紙：栗拾い
はら ふみ(イラストレーター)

※「あぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.189

愛媛の酒蔵めぐり ⑮〜水口酒造(株)

2

〈特集〉JAグループの28年産米集荷・販売の取り組み

**農家手取り向上をめざし、
「売れる米づくり」と集荷・
販売対策を実践します！**

6

THE・ねっとわーく

7

JA全農えひめグループ7社 平成28年度役員体制

8

トピックス

「2016愛媛みかん大使」4人を任命！

10

ふるさと ESSAY VOL.257

**愛媛県産ブランド開発で
苦境を打破する**

田中 正志さん

12

TOPIC NEWS

15

統計BOX

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉**ピーマン**

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

農家手取り向上をめざし、「売れる米づくり」と集荷・販売対策を実践します！

平成27年産米では需給環境が回復基調となった一方、集荷面や販売面で課題を残しました。平成30年産以降は農政転換により、産地は国の生産数量目標の配分に頼らず、自らの販売戦略に基づき需要に応じた生産に取り組むことが求められます。特に愛媛県は米の消費県ということで、実需者・県内消費者のニーズに答えられる安定的な供給体制の構築が重要です。

今回は、平成28年産米をめぐる情勢とともに、JA全農えひめの農家手取り向上と集荷・販売の取り組みを紹介します。

はじめに

平成27年産米では、昭和46年の生産調整開始以来初めて減反が達成されたこともあり、米の需給環境は回復基調となって米価格の一定押し上げにつながりました。ただ、愛媛県は消費県であるとともに、27年産の作況指数が「98」とやや不良となったため、愛媛県産米を求める実需者

や県内消費者のニーズに答えるものとなりませんでした。

こうした中、JA全農えひめでは、28年産米において、「水田フル活用」を基本に、収量・品質を上げること、農家手取り向上、トータルコストダウンを進めるとともに、安定的な供給ができるよう集荷向上に取り組んでいきます。

平成28年産米を取り巻く情勢

(1) 需給情勢

総務省家計調査によると、中食・外食等の業務用米は安定的な伸びを見せている一方、1世帯あたりの家庭用米の購入量（前年7月からの12か月合計）は、69kg（前年比95・7%）と減少の一途をたどっており、

6月末民間在庫の推移（平成28年7月時点）



毎年約8万トンの米消費が減少しています。
こうした中で、27年産米では飼料用米への取り組みが増加したこと等により生産数量目標が達成され、平

27/28年の主食用米等の需給見通し

(単位：万トン)

平成28年6月末民間在庫量	A	205	205
平成28年産主食用米等生産量	B	743 (生産数量目標)	735 (自主的取組参考値)
平成28/29年主食用米等供給量計	C = A + B	948	940
平成28/29年主食用米等需要量	D	761	761
平成29年6月末民間在庫量	E = C - D	187	179

注：自主的取組参考値(735万トン)については、平成27年11月に変更した基本指針において、仮にこれだけ生産すれば、平成29年6月末の民間在庫量が近年では低位の水準となるものとして設定したもの。

成28年6月末の民間在庫は205万トンと適正在庫の目安となる200万トンの180万トンのレベルまで減少しました。そのため、28年産主食用米等生産量(生産数量目標)が743

万トンと予定通り達成されれば、平成29年6月末の民間在庫は187万トンと需給バランスが取れた状態になる可能性が出てきました。

ただ、今後の高温、好天次第では大豊作になる可能性も出てきており、需給動向は依然として不透明な状況となっています(作況指数1ポイントにつき約8万トン増加)。

(2) 県内情勢
→ 平成27年度の総括
 愛媛県内の平成27年産米の主食用米作付面積は、目標14,840haに対し14,600ha、作況指数98、生産量71,200トンと、生育期間全般を通じて日照不足や秋口の低温等により作柄はやや不良となりました。

平成27年産のJA買取価格は、需給環境の改善により一定回復した米穀情勢を反映し、全国の概算金と同様に前年を1,000円/60kg程度上回る設定を行いました。しかし、作柄不良等により県域(JA全農えひめ)の集荷数量は目標16,000トンに対し14,127トン(目標比88%、前年比97%)と大幅な集荷拡大には至りませんでした。

また、販売先が必要とする数量を確保できない銘柄も一部あった

め、今後は販売先との連携を密に図り、消費者ニーズを踏まえた「売れる米づくり」に向けた作付誘導を図っていく必要があります。

農家手取り向上の取り組み

- ① 生産者の経営所得の安定・向上を図り、将来にわたって県内の水田耕作面積を維持するため、「水田フル活用」を展開して主食用水稻を中心に特産麦や野菜など裏作物目の作付拡大と生産対策などを推進していきます。
- ② 「売れる米づくり」に向けて、「コシヒカリ」「あきたこまち」「ヒノヒカリ」「にこまる」の主力品種を中心に用途別需要に応じた作付け誘導を進めます。
- ③ 良食味を重点に収量アップと安定生産を目指し、研修会の開催や食味分析、栽培体系試験等を実施し、省力・低コスト技術と併せてトータルコストダウンをめざしていきます。
- ④ 水田活用米穀については、JAグループで一括して取扱う全国共同計算方式に参画し生産者手取りの平準化を図っていきます。さらに、需要が増加傾向にあるにもか

かわらず飼料用米等の取り組みにより不足している業務用米について、主食用多収性品種の試験栽培を行い、新たな生産、販売の方向性をめざしていきます。

28年産米集荷販売の取り組み

(1) 集荷

28年産米の集荷においては、JA・全農による「買取販売」を継続実施するものとし、28年産米の集荷目標を、JA集荷21,000トン、県域集荷16,000トン（主食用15,000トン・水田活用米穀1,000トン）とします。

(2) 集荷拡大対策

- ① (株)ひめライスをはじめとする県内販売先との連携強化のもと、情勢を加味しながら最大限の買取価格水準の設定をめざします。
- ② JATAC月例会への参画やJA米穀担当者との事業検討会の開催を通じて、担い手や大口生産者およびJA未利用生産者の情報を共有化し、一体となって集荷推進できる体制づくりに取り組みます。
- ③ JATACやJA米穀担当者との同行推進を積極的に企画し、県



域集荷数量16,000トンを目標に、各JA集荷率1割向上をめざします。

(3) 流通コスト低減対策

- ① 各地区物流協議会と連携し、集荷拡大に向けた無料庭先集荷や土日集荷等を実施し、生産者の利便性向上に合わせた集荷体制の構築を進めます。
- ② 労力の低減や人件費・紙袋等のコスト低減を図るため、大口生産者に対してフレコン集荷を推進します。

(4) 販売

- ① (株)ひめライスの連携強化による県域生販一貫体制に基づき、県



- 内の精米トップブランドである「ひめライスブランド」を維持・拡大していくため、買取販売強化によりニーズに応える集荷量の確保に取り組めます。
- ② 販売先卸と連携し、学校給食用、業務加工用等の用途別ニーズにマッチした販売対応を行うとともに、需要に応じた買取方法を検討していきます。
- ③ 特別栽培米や酒米契約栽培等の推進による契約加算米の拡大や、差別化の図れる良食味高付加価値米の作付を推進します。
- ④ 「にこまる」については、販売先と連携した専用袋による販売やTVCM等を実施し、「愛媛ブラ

ンド米」として認知度向上に取り組めます。

需要に基づく生産体制と安定供給のための集荷体制の取り組みを進めよう!

平成28年6月末時点の民間在庫は205万トンと適正量を上回る在庫量となっています。JAグループでは28年産米で需給均衡を図るべく昨年に引き続き飼料用米等の水田活用米穀の作付誘導に取り組んだことから、28年産の生産見込みは生産数量目標を2年続けて達成する見込みとなり、来年6月末の民間在庫は適正在庫量の180万トン程度まで減少すると想定されています。

こうしたことから米価格も回復基調となっていますが、消費現場である量販店等での精米販売環境は必ずしも好転していません。しかし、一方で安価な品種が飼料用米等に作付変更されたことから、業務用向け品種が不足している状況にもあり、品種毎の需給バランスは不安定な状況となっているのが現状です。

こうした情勢を受け、JA全農えひめ営農食糧部の中原一憲部長は、「30年産以降の農政転換により生産調整の見直しがなされ、産地は国の



▲JA全農えひめ
営農食糧部長 中原 一憲

生産数量目標の配分に頼らず、自らの販売戦略に基づき需要に応じた生産に取り組むことが求められてきます。消費県である本県は地産地消を期待する販売先からの要望にこたえ、需要に基づく生産体制と安定供給のための集荷体制が重要となります。

JA全農えひめとしては、関係機関と連携し適正な用途別作付振興方針を策定するとともに、県内の主要品種の食味向上対策や業務用多収品種の導入に取り組めます。また、フレコン集荷等の流通コスト低減対策や低コスト生産対策、裏作作付による水田フル活用等に取り組む、生産者の所得向上を図っていきます」と話しています。

生産者・組合員の皆様には、28年産米の集荷・販売をはじめJA全農えひめの取り組みについて引き続きご協力をお願いします。

THE

ねとわーく

「えひめの新米やってきた！」
新米キャンペーン実施中！

（株）ひめライス

（株）ひめライスは、県内産を中心に新米の発売をアピールしようとして、8月22日から10月31日まで、新米キャンペーンを実施しています。

キャンペーン名称は、「えひめの新米やってきた！」。「伊予牛」「絹の味」黒毛和牛すき焼き用約500g」「愛媛県産紅まどんな」「愛媛県産伊達真鯛」などが計900人に当たります。

期間中は、テレビCM、ポスター・リーフレット・新聞広告などを通じて積極的にキャンペーンPR活動を展開し、「愛媛の新米」を味わってもらい、県内産米の消費拡大と『ひめライス』ブランド強化を図ります。

【キャンペーン名称】

ひめライス新米キャンペーン「え

ひめの新米やってきた！」

【実施期間】

平成28年8月22日～10月31日

【賞品】

▼A～C賞各100人（計300人）

○Aコース＝伊予牛「絹の味」黒毛和牛すき焼き用ロース約500g
○Bコース＝「愛媛県産紅まどんな」約2.5kg
○Cコース＝「愛媛県産伊達真鯛」（320g、カット加工・真空パック）

▼Wチャンス

A～Cコースの抽選ではずれた方の中から抽選で600人にWチャンスとして、「愛媛県産にこまる2kg」をプレゼント。

【応募方法】

ひめライスの「応募シール」または米袋左上についている「ひめマーク」を切り取り、2kg分以上を1枚1口（もち米1.4kgなら

1枚1口）としてご応募ください。
※1商品で2口応募できます。

応募ハガキまたは郵便ハガキに、①ご希望の賞品コース（A～Cコースのうち1つを選択）、②郵便番号、③住所、④氏名、⑤年齢、⑥電話番号、⑦購入店、⑧ひめライスに対するご意見・ご感想を明記の上、ご応募ください。

1人で何口でも応募できますが、応募はハガキ1通につき1口とさせていただきます。

【対象商品】

ひめライス全商品（もち米含む）

【応募先】

〒791-1316 3

伊予郡松前町大字徳丸字五屋敷771-125

（株）ひめライス新米キャンペーン係

【応募締切】

10月31日（当日消印有効）

【抽選・当選発表】

11月中旬に抽選を行い、賞品の発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

応募方法など詳細は、販売店のポスター・リーフレット、（株）ひめライスのホームページでご確認ください。

ひめライス新米キャンペーン
えひめの新米やってきた！
2016年 8月22日～10月31日
合計 900名様に当たる！
ひと味がうよ！
ひめライスの新米！
Aコース 伊予牛「絹の味」黒毛和牛すき焼き用 100名様に当たる！
Bコース 愛媛県産 紅まどんな 100名様に当たる！
Cコース 愛媛県産 伊達真鯛 100名様に当たる！
Wチャンス！ 愛媛県産にこまる2kg 600名様に当たる！
1商品で2口応募できる！
Facebookでも参加しよう！
主 株 会社 ひめライス

JA全農えひめグループ7社 平成28年度役員体制

は28年度新任。

平成28年8月4日現在

(株)えひめ飲料		
役職名	氏 名	
代表取締役社長	高原 茂	常勤
代表取締役専務	濱本 泰久	常勤
常務取締役	川田 永治	常勤
常務取締役	山本 卓治	常勤
取 締 役	菅野 幸雄	非常勤・JA全農えひめ運営委員会会長 JAえひめ中央
取 締 役	西本 満俊	非常勤・JA全農えひめ運営委員会副会長 JAにしよう
取 締 役	黒田 義人	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JAえひめ南
取 締 役	森實 光夫	非常勤・(株)えひめフーズ代表取締役社長
取 締 役	小越 慎介	非常勤・JA全農えひめ県本部長
常勤監査役	岡本 慎也	常勤
監 査 役	井手 洋行	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JAおちいまばり
監 査 役	菊地 秀明	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JA愛媛たいき
監 査 役	内山 隆	非常勤・JA全農グループ会社統括部次長

JAえひめアイパックス(株)		
役職名	氏 名	
代表取締役社長	峰岡 茂夫	常勤
常務取締役	森川 威久	常勤
常務取締役	中川 達也	常勤
取 締 役	井手 洋行	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JAおちいまばり
取 締 役	菅野 幸雄	非常勤・JA全農えひめ運営委員会会長 JAえひめ中央
取 締 役	菊地 秀明	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JA愛媛たいき
取 締 役	小越 慎介	非常勤・JA全農えひめ県本部長
取 締 役	関岡 光昭	非常勤・JA全農えひめ副本部長
監 査 役	戸田 耕二	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JA周桑
監 査 役	黒田 義人	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JAえひめ南
監 査 役	達川 青児	非常勤・JA全農監査主任者

JAえひめフレッシュフーズ(株)		
役職名	氏 名	
代表取締役社長	大津 満	常勤
常務取締役	西 尊公	常勤
取 締 役	篠原 一志	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JAうま
取 締 役	加藤 尚	非常勤 JA西条
取 締 役	小越 慎介	非常勤・JA全農えひめ県本部長
取 締 役	関岡 光昭	非常勤・JA全農えひめ副本部長
監 査 役	和氣 茂太	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JAひがしうわ
監 査 役	達川 青児	非常勤・JA全農監査主任者

(株)えひめライス		
役職名	氏 名	
代表取締役社長	松田 一人	常勤
常務取締役	武田 司	常勤
取 締 役	加藤 尚	非常勤 JA西条
取 締 役	戸田 耕二	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JA周桑
取 締 役	菅野 幸雄	非常勤・JA全農えひめ運営委員会会長 JAえひめ中央
取 締 役	和氣 茂太	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JAひがしうわ
取 締 役	竹村 靖	非常勤・JA全農えひめ副本部長
監 査 役	菊地 秀明	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JA愛媛たいき
監 査 役	武田 博志	非常勤・JA全農監査主任者

JAえひめエネルギー(株)		
役職名	氏 名	
代表取締役社長	峯本 耕典	常勤
常務取締役	宮田 研二	常勤
取 締 役	小越 慎介	非常勤・JA全農えひめ県本部長
取 締 役	竹村 靖	非常勤・JA全農えひめ副本部長
監 査 役	武田 博志	非常勤・JA全農監査主任者

(株)えひめフーズ		
役職名	氏 名	
代表取締役社長	森實 光夫	常勤
取締役管理部長	丸山 茂	常勤
取 締 役	西本 満俊	非常勤・JA全農えひめ運営委員会副会長 JAにしよう
取 締 役	高原 茂	非常勤・(株)えひめ飲料代表取締役社長
取 締 役	小越 慎介	非常勤・JA全農えひめ県本部長
監 査 役	岡本 慎也	非常勤・(株)えひめ飲料常勤監査役

JAえひめ物流(株)		
役職名	氏 名	
代表取締役社長	清水 宇造	常勤
常務取締役	白石 啓司	常勤
取 締 役	篠原 一志	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JAうま
取 締 役	井手 洋行	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JAおちいまばり
取 締 役	菅野 幸雄	非常勤・JA全農えひめ運営委員会会長 JAえひめ中央
取 締 役	菊地 秀明	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JA愛媛たいき
役職名	氏 名	
取 締 役	西本 満俊	非常勤・JA全農えひめ運営委員会副会長 JAにしよう
取 締 役	黒田 義人	非常勤・JA全農えひめ運営委員 JAえひめ南
取 締 役	小越 慎介	非常勤・JA全農えひめ県本部長
監 査 役	高原 茂	非常勤・(株)えひめ飲料代表取締役社長
監 査 役	達川 青児	非常勤・JA全農監査主任者

「2016愛媛みかん大使」4人を任命！

～1年間愛媛産柑橘の魅力进行PRします～



▲2016愛媛みかん大使（右から＝永尾さん、濱本さん、松下さん、玉井さん）

J A全農えひめ果実課は、8月19日、松山市のJ A愛媛で、愛媛みかん・伊予柑など愛媛産柑橘をPRする「2016愛媛みかん大使」4人を任命しました。

58代目となる「2016愛媛みかん大使」は、永尾真穂さん（23歳・松山市在住・団体職員）、濱本茜さん（21歳・八幡浜市在住・団体職員）、松下茉鈴さん（20歳・東温市在住・大学生）、玉井佳奈さん（23歳・松山市在住・団体職員）。

任命式では、J A全農えひめ運営委員会の菅野幸雄会長が、「柑橘農家は品質の良い美味しいみかん・柑橘を届けようと日々努力しています。そうした愛媛の柑橘農家の想いを消費者の皆様に伝えてほしい。愛媛の柑橘が全国でスムーズに販売できるよう愛媛県産柑橘のPR・消費宣伝活動に頑張っていたきたい」と激励し、大使一人一人に任命状と賞金目録を手渡しました。

前年の大使からタスキを受け継いだ4人は、「たくさんさんの愛情が注がれた愛媛のみかんを全国の皆さんに知っていただけるよう頑張ります」などと笑顔で今後の抱負を話しました。

今年は、6月10日から7月11日まで愛媛県内在住の18歳以上の方を対象に募集を行い、期間中93人（女性91人・男性2人）の応募がありました。書類審査を通過した17人が面接審査（8月10日開催）に臨み、J A全農えひめ、愛媛県果樹同志会会長、マスメディア関係者、2015愛媛みかん大使など審査員15人が、「印象（好感度）」「知性」「容姿（姿勢等）」などを総合的に審査して、4人を決

2016愛媛みかん大使4人のプロフィール



なが お ま ほ
永尾 真穂さん

(松山市在住・団体職員)

【抱負】 幼い頃から大好きだった愛媛みかんを多くの方に知っていただきたいと思い応募しました。愛媛みかん大使に任命していただき光栄に思います。農家の方々が心を込めて作られた愛媛みかんを一人でも多くの方に愛していただけるよう精一杯頑張ります。

【趣味】 華道・旅行
【特技】 書道



はまもと あかね
濱本 茜さん

(八幡浜市在住・団体職員)

【抱負】 私は生産者としての苦労や努力、喜びを近くで感じてきました。みかん大使に選ばれ大きなチャンスをしていただきとても嬉しく思っています。なので、努力の結晶であるみかんを全国に発信し、少しでも生産者の皆さんの力になれるよう頑張っていきます。

【趣味】 人の長所を見つけること
【特技】 周りの人を笑顔にすること



まつした まりん
松下 茉莉さん

(東温市在住・大学生)

【抱負】 愛媛みかんの美味しさをもっと発信したいと思い応募しました。みかん大使に任命いただき大変光栄に思います。愛媛みかんの魅力をたくさんの方にお伝えし、1人でも多くの方に“愛媛みかん”のファンになっていただきたいです。精一杯頑張ります。

【趣味】 カフェ巡り・旅行
【特技】 ダンス、ヘアアレンジ



たま い か な
玉井 佳奈さん

(松山市在住・団体職員)

【抱負】 歴史ある愛媛みかん大使第58代目に任命していただき、大変うれしく思います。農家の方が丹精込めて作られた愛媛自慢の柑橘の美味しさを一人でも多くの方に伝えられるよう4人で1年間一生懸命PRしてまいりますのでよろしくお願いいたします。

【趣味】 旅行、音楽鑑賞
【特技】 書道、弓道

2016愛媛みかん大使任命式



▲J A全農えひめの菅野幸雄会長（写真中央左）と小越慎介県本部長（中央右）、を囲んで

定しました。
4人は、10月19日開催される「愛媛県園芸大会」で県内の生産者・J A関係者にお披露目。10月29日の「レインボーフェスティバル」(松山市)、11月上旬の「愛媛みかん消費拡大キャンペーン」(東京・大阪)のほか、年明けの1月からは「愛媛いよかん大使」として「愛媛いよかん全国縦断キャンペーン」(京阪神・首都圏・札幌)、4月14日のオレンジデーに向けた「オレンジロード」関連イベントなど、来年8月末まで各種イベントや販促・試食宣伝活動、マスメディアへの出演等を通じて愛媛産柑橘をPRしていきます。応援をよろしくお願いします。





愛媛産ブランド開発で 苦境を打破する

当社は昭和28年に味噌醸造場として
はじまり、愛媛の麦味噌文化を牽引し
てきましたが、時代の流れとともに食
文化は変わっていきます。食事はパン
やスープへと洋食化、コンビニエンスス
トアで手軽に弁当が買え、共働きで朝
ごはんは簡素化、即席みそ汁が登場。
大手スーパーが進出してオリジナル・
ブランドを展開し、ディスカウントス
トア、ドラッグストアでは関東圏の味
噌も並んでいます。なじまない味の味
噌に最初はあれつと違和感も覚えなが
らも、食べ続けるとだんだんと慣れて
くるもので、愛媛の地元の味噌屋さん
はだんだんと看板を下ろし、当社の売
り上げもまた平成8年位から毎年5%
程度減っていきます。

なんとかせなにかん。

もがき苦しむ中でたどり着いたの
は、麦味噌を守っていくだけではいけ
ない、愛媛県産の加工品を手がけてい

こうという一つの答えです（この取り
組みは後の事業展開につながってい
きます）。

平成16年、伊予柑ドレッシングに着
手します。愛媛が誇る全国一の生産量
の伊予柑も傷があると廃棄処分とはひ
どい話です。大きくて加工がしやすく、
果汁は多くてしぼりやすく、味よし香
りよしの逸材です。利用することで農
家所得にもつながっていきます。

試しに大手の柑橘ドレッシングを試
食してみれば、値段は安く、味は……
「そこそこ、いい」といった最大公約
数的なものでした。

作る以上は徹底的にこだわり、大手
のメーカーが絶対できないおいしいも
のにしよう。本物がわかる人と商売を
しよう。

最初は自分たちだけで手作業でしぼ
り作ってみたものの、味に今一つ魅力
がありません。果汁だけではだめだと

田中正志

TANAKA MASASHI

義農味噌代表取締役社長。伊予郡松前町出身。昭和32年2月21日生まれ。昭和54年3月山梨大学工学部発酵生産学科を卒業。筑波の農林水産省食品総合研究所研修士を経て、昭和55年4月義農味噌㈱入社。製造部主任、取締役部長、常務取締役を経て、平成15年から代表取締役社長。座右の銘は、「大きな努力で小さな成果」。趣味は温泉めぐり、囲碁2段、剣道3段、家庭では5人の子どもの良き父親でもある。義農味噌は、「私たちは、えひめの麦みそ文化を伝承・発展させます。私たちは、食を通じて健康とおいしさで社会に貢献します。私たちは、幸福の共有を目指し、共に成長発展します。」を経営理念に掲げ、日々邁進している。



ギノーみそ



▲伊予柑ドレッシングと七折梅ドレッシングを手に、田中正志社長

試行錯誤をし、うまみの濃い皮を入れることで味を深め、視覚的にもアピールできる商品となりました。

続いて着目したのが、果肉も柔らかくおいしい七折梅です。なぜ、七折梅？梅と言えば和歌山の南高梅でしょうと周辺がざわつきます。七折梅生産組合の門をたたくも、すでに梅干しと梅シロップがあるから、余剰の梅はないからと門前払いされる始末です。七折梅

もまた自分たちで100kgの梅を収獲して手作業で漬け、添加物ゼロのおいしい梅ドレッシングができました。自信の品は200g、650円。社員は、大変驚いています。スーパーでは、まあ298円でしょうといえます。いえいえそれでは儲かりません。日本一の七折梅を使い、半年かけて納得のいくまでこだわり作った逸品です。

2月20日、七折梅祭りが始まります。キャベツに梅ドレッシングをかけて試食してもらうマネキン販売を行い、初日の3日で1,000本が売れ、祭り期間中に用意していた2,600本が完売してしまいます。当時の矢野征司組合長はあまりの売れ行きに驚き、次回から漬けることを約束してくれました。イベント効果は大きく、その後は口コミも加わって、年間2万本を販売しています。

物事の立ち上げにはとてもエネルギーをつかいます。私は子どものころから食べておいしいとわかっていた七折梅でしたから確信はありましたが、信用がなければ原料さえ分けてはもらえません。労力を惜しまず、自分たちですべてをすることで本気度をわかってもらえます。

素材に付加価値を付けた商品づくりであると同時に、素材については一切の値段交渉をせず定価で買っているのも特徴の一つです。そして、七折生産組合から送られてくるのは一番お天道さんにあたっているでん・なり・の完熟梅です。有名な南高梅を使っていたなら失敗していたでしょう。私たちは小さなマーケットからオンリーワンを目指していきます。

●JA農業担い手サポート実践会議

JAの信用・営農部門が一体となり、農業者の所得増大を！

JA全農えひめなどで構成する「JAグループ愛媛担い手サポートセンター協議会」は、7月25日松山市のJA愛媛でJAの信用部門と営農部門が一体となり、農業経営支援能力を発揮し、農業者の期待に応えていくことにより、農業者の所得増大につなげることを目的として、「JA農業担い手サポート実践会議」を開きました。

会議には、JAで担い手対応を行う営農・信用部門の担当者など68人が出席。参加者が7班（園芸部門5班・果樹部門2班）に分かれてグループワークを実施し、農業者の所得増大を目的として、担い手の事例資料を基にJAの信用部門と営農部門が一体となり、提案内容シートと5年後の経営改善計画表の作成に取り組みました。

参加者アンケートでは、会議の必要性を98%が感じており、「営農・金融との連携強化に大いに役立った」といった意見も出されていました。

会議では、JA全農本所と農林中金から情勢報告。JA全農は地域農業の現状とTAC活動の取組み状況のほか、TACと信用部門が連携



した優良事例を紹介する中で融資課との連携の必要性について報告しました。

また、県域における担い手サポート支援について、JA愛媛中央会が「新規就農者、集落営農組織、法人、JA出資型営農組織に対する支援」・JA愛媛県信連が「JAバンクえひめ農業応援プログラム」、JA全農えひめが「生販マッチング担い手支援要領の要望状況およびTAC活動状況」、JA共済連愛媛が「地域・農業活性化にかかる活動支援助成、農業リスク診断活動」等について報告・説明しました。

●ファーマーズマーケットいよっころ

親子料理教室を通じて地産地消を推進！

伊予市下吾川のJAえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよっころ」は、7月9日、伊予市の生涯学習センターさざなみ館で、地産地消の推進に向けて、地元農畜産物の美味しさや魅力を伝えようと、「いよっころ親子料理教室」を開きました。

この料理教室は、地産地消の推進と食農教育の一環として地元の児童とその保護者に料理を通して地元農畜産物の美味しさと魅力を伝えようと開催しており、今回が6回目。伊予市と周辺市町から7組15人が参加しました。

今回は、松田礼子さんをはじめ「いよっころ」の出荷者が組織する運営協力会の会員3人が講師となり、「いよっころ」で販売している旬の農畜産物を使って、「子どもたちが作って楽しめる料理」を提案。説明を受けた参加者は、「こねこね皮から作る手づくりギョウザ」「いよっころの唐揚げで簡単アレンジ酢鶏」「生春巻き」などに挑戦しました。



中でも皮から手づくりした餃子は「めっちゃ美味しい！」と参加者に大好評。忽那志音さん（北伊予小5年）は、「皮がもちもちでお店で食べるよりも美味しかった。楽しかったので、家でも作ってみたい」と笑顔を見せていました。

参加した保護者の皆さんも「野菜がたっぷりで暑い夏にも食べやすい料理ばかり。家でもぜひ作ります」と話していました。

●JA愛媛米麦生産者組織協議会第17回通常総会

北尾幸一新会長を選出！需要に応じた生産と品質向上を！

J A 愛媛米麦生産者組織協議会は、7月15日、松山市内で第17回通常総会を開き、北尾幸一会長（新任・J A えひめ中央）以下の新役員（28～29年度）と28年度事業計画を決めるとともに、「持続可能な農業・農村の実現に向けた特別決議」を採択しました。

28年度計画では、「えひめ米」の需要に応じた生産と品質向上対策に取り組むこととし、需要の安定した「コシヒカリ」「あきたこまち」「ヒノヒカリ」「にこまる」を中心にした作付誘導とともに、用途別需要に応じた生産誘導を進めることを確認。26年産米の「ヒノヒカリ」に次ぐ食味ランキング「特A」評価獲得に向けて取り組みます。このほか、29年連続生産量日本一のはだか麦を中心に、特産麦・県産大豆の品質

向上・安定生産対策に取り組めます。

会長以外の主な新役員は次のとおりです（敬称略。カッコ内はJ A 名）。

▽副会長＝砂田虎善（新・今治立花）、坂本順作（再・えひめ南）

▽監事＝山内美文（新・周桑）、三好伸吉（新・ひがしうわ）



▲あいさつする北尾新会長（左）ほか新役員の皆さん

●愛媛県民間流通地方連絡協議会

反収向上対策を実践しはだか麦の安定供給を！

J A 全農えひめ食糧生産課は、7月15日松山市のにぎたつ会館で愛媛県産麦の円滑な流通をめざし、愛媛県民間流通地方連絡協議会を開きました。

会議には、精麦や製粉、醤油・味噌関連の実需者15社・組合と生産者・J A・県関係者ら57人が出席。28年産の販売見込数量や29年産の販売予定数量を確認するとともに、愛媛県産麦に対する意見交換を行いました。

29年連続生産量日本一（27年産実績）の愛媛県産はだか麦は、29年産の販売予定数量4,817トンに対して購入希望数量が6,428t。近年、高齢化に加え播種期や収穫期の天候不順により収穫量が当初見込みを下回る状況となっており、実需者からは需要に応じた数量確保と安定

供給を求める声が強く出されました。

こうした中で、J A 全農えひめ・愛媛県米麦振興協会では、実需者ニーズに対応するため販売予定数量の確実な確保と安定供給、良品質麦の生産に取り組んでいます。また、有望品種の「ハルヒメボシ」への品種転換を計画的に進めることにしています。

小麦は、29年産販売予定数量451tに対して購入希望数量は522tとなっています。

会議では、愛媛県農林水産研究所から単収向上対策の取り組み紹介、愛媛県産麦の作付計画などが紹介されました。

なお、28年産は天候不順により、はだか麦の集荷数量は3,352t（前年比95%）でした。

「低コスト商品・生産資材価格引き下げの取り組み」について J A 全農ホームページで掲載を開始しました！

J A 全農は、平成28年8月15日から、ホームページ内で低コスト商品や生産資材価格引き下げの取り組みについて掲載を開始しました。

J A 全農は、「3か年計画」で、生産から販売までのトータルコスト低減など持続可能な農業生産・農業経営づくりへの貢献に取り組んでいます。肥料、農薬、農業機械、段ボール、飼料等の生産資材については、生産コスト低減のため、低コスト技術・商品の開発や取扱い、物流改革、輸入、共同利用等に取り組んでおり、その取り組み内容を生産者・J A の皆さんに紹介し生産コスト低減を支援します。

「低コスト商品・生産資材価格引き下げの取り組みについて」のページでは、今後も、順次取り組み内容や生産資材関係情報を掲載し、J

Aグループ自己改革の一環として、生産者に、営農に必要な情報をわかりやすく伝える生産資材価格の「見える化」に取り組んでいきます。

◆全農ホームページアドレス

<http://www.zennoh.or.jp>

◆掲載内容

- (1) 肥料：輸入化成肥料
- (2) 農薬：担い手直送規格
- (3) 農業機械：J A グループ独自型式・重点型式の仕様・メーカー希望小売価格
- (4) 段ボール：段ボール原紙・段ボール箱の種類と特性の解説
- (5) 飼料：牛代用乳・豚人工乳、混合飼料などの紹介や飼養管理技術の解説

●平成27年産冬春野菜出荷反省会 共販量は前年比98%、販売金額は92%

J A愛媛野菜生産者組織協議会とJ A全農えひめ野菜花卉課は、7月12日、J A愛媛別館で、平成27年産冬春野菜出荷反省会と28年産の生産対策会議を開きました。対象品目は、レタス・ブロッコリー・キャベツ・冬春きゅうり・ほうれんそう・白ねぎ・一寸蚕豆の7品目。会議には、品目部会長・J A・市場・行政関係者ら約70人が出席しました。

27年産冬春野菜は、出荷量は3,369 tで計画比87%、前年比98%となりました。年内の暖秋・暖冬の影響と年明け以降の降雪などにより前進出荷（集中出荷）と端境期を繰り返し不安定な出荷となった品目が多く、単価も年内の数量増・単価安の影響を受けて、平均単価は259円で白ねぎを除き前年を下回り、販売金額は全体で前年比92%でした。企画販売は、レタス・キャベ

ツで販売先を増やしたものの総じて安定出荷に課題を残しました。

市場からは、作付面積の維持拡大とロットの確保、期間を通じた長期安定出荷、J A間・個人間格差の是正、販売先に対応した出荷の検討や高温期の対策などの要望が出されました。

平成27年産冬春野菜販売実績表

品 目	共販量 (t)	kg単価 (円)	前年比 (%)	
			共販量	kg単価
レタス	935	193	106	89
ブロッコリー	452	304	118	90
キャベツ	337	78	82	92
冬春きゅうり	1,050	288	102	97
ほうれんそう	128	434	82	94
白ねぎ	236	319	90	114
一寸蚕豆 (H28)	230	418	72	94
合 計	3,369	259	98	94

●平成27～28年産いちご出荷反省会 出荷量は前年比102%、 kg単価は100%

J A愛媛野菜生産者組織協議会とJ A全農えひめ野菜花卉課は、7月26日、松山市のJ A愛媛別館で、平成27～28年産いちご出荷反省会・生産対策会議を開きました。

愛媛産のいちご販売実績は、出荷量が901 t（前年比102%・計画比89%）、kg単価1,008円（前年比100%）でした。

27～28年産は、暖秋・暖冬の影響で年内は前進出荷となったため、単価安で推移。前進出荷の影響でクリスマス需要期に数量が減少予想の中で、一部輸入品の入荷も見られ単価を下げる一因となりました。年明け以降は、年内の前進出荷の影響と1月下旬の寒波の影響等もあり数量が伸び悩み、単価高で推移。春先は気温の上昇とともに数量が増加したものの品質低下もみられ、各産地とも例年より早めの切り上がりとなりました。

市場からは、荷姿対策や産地間・生産者間の選果選別の統一・徹底、12～2月の需要期の出荷比率向上、ロットをまとめるための品種集約などの要望があげられました。

●平成28年産夏秋花卉出荷会議 前売り体制の充実と 市場販売力強化を！

J A全農えひめ野菜花卉課は、7月12日、平成28年産夏秋花卉出荷会議を開き、夏秋期品目の販売基本方針と冬春期品目の課題と対策について協議しました。

夏秋品目販売基本方針では、主力のテッポウユリが共販量540,000本（前年比107%）、デルフィニウムは155,580本（同79%）、ユーカリ309,800本（同79%）などを計画。

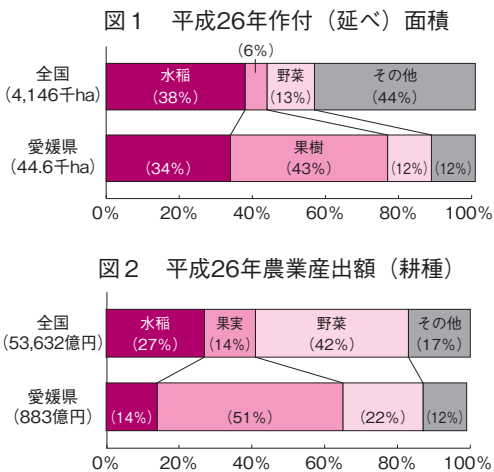
販売方針では、テッポウユリとデルフィニウムは、前売り体制の充実と市場販売力の強化、品質向上・均一化に向けた取り組み強化などを進めます。テッポウユリは、8月盆・9月彼岸の予約注文を中心に有利販売に取り組みます。

ユーカリは、市場・花店ニーズに合った出荷形態の推進とともに、選別徹底とPR活動等により愛媛産花木ブランドの推進強化に取り組みます。

統計BOX

愛媛県のおコメ事情

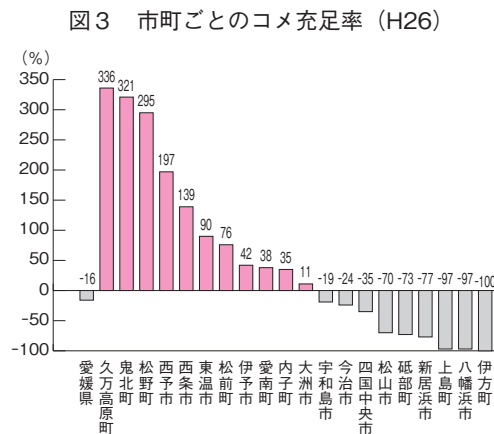
－「作物統計調査」、「平成26年食料需給表」及び総務省「国勢調査」の結果から－



愛媛県の平成26年の作付延べ面積（野菜など年間複数回収穫するものは延べ面積で集計）は44,600haで、水稻は15,000ha（34%）、果樹が19,000ha（43%）、野菜が5,170ha（12%）などとなっています。全国では38%が水稻、果

県内のコメの位置づけ ～農業産出額、作付面積～

平成28年産の新米が店頭に並び始めました。また、県内の水稻の作況指数もまもなく発表されます。愛媛県の昨年の水稻作付面積は14,000haあまりとなっています。本県は、全国でも少数派の水田面積より樹園地など畑が多い県で、おコメは移入県となっています。今月は県内のおコメの生産と消費についてみてみます。



注：総務省「国勢調査」、農水省「作物統計調査」、「食料需給表」から作成。

全国的には特殊ともいえる愛媛県

県内水稻の生産と消費事情

このように、県内の耕種農業は、全国に比べ面積・生産額とも果樹、とりわけ柑橘類に特化されており、次いで水稻・野菜等の生産が行われています。

樹は6%、野菜が13%となり、4割以上を占めるその他の作物の主体は飼肥料作物となっています。全国と比較すると愛媛県の果樹面積割合の高さが際立っています（図1）。また、農業産出額は耕種が883億円となっていますが、そのうち水稻の占める割合は14%、果実の割合は51%と、ここでも水稻に比べ果実のウエイトの高さが見て取れます（図2）。

の農業ですが、主食であるおコメについて食料自給の観点から域内の需要・供給に着目すると、市町ごとの特徴が見えてきます。

図3は市町ごとのコメの充足率です。年間一人当たりのコメの供給量と各市町の人口から求めた需要量に対して、どの程度の生産量があるかを試算したものです。

水稻は作付けされていても人口の多い都市部や、水田面積の少ない島しょ部では、域内の需要を賄うことができませんが、久万高原町や鬼北町、松野町などは域内の需要を賄ってなお3倍程度の生産量があるなど、県内20市町のうち11市町で域内の需要を満たし、他地域への供給が可能となっています。しかしながら、県内全体では16%程度不足しており、移入県となっています。

今日、主食用米の需要量は毎年8万トンのトレンドで減少していることから、国では主食用米から大豆や麦、飼料用米等への転換を進めています。そして、平成30年産米を用途に、行政による生産数量目標の配分を見直し、需給見通し等の策定・提供へと移行することとしています。生産者は、これを踏まえ自らの経営判断にもとづき作物を選択し、需要に応じた生産へ見直しを図ることとなり、より一層の経営感覚を持つことが、耕種農業経営の安定につながることを示しています。

中国四国農政局愛媛支局 統計チーム



●特集「基本は安心JAホーム」を読んで、うれしくなりました。それは、昨年6月、娘夫婦の家が完成したのです。家は小さく可愛い家です。とても無駄のない住みよい家です。娘夫婦は毎日快適に過ごしています。これからも小さくて可愛いお家に、夫婦は生涯JAに感謝しながら大切に住むことでしょう。JA新居浜市に感謝しております。ありがとうございます。

県内で野菜はいろいろあると思いますが、この年で知らない野菜も多くあります。東西に長い愛媛です。どんなものがあるか知りたいです。
(新居浜市・高橋 八重子さん)

●現在私が住んでいる家は、築38年です、リフォームは十数年前にしましたが、耐震性がとても心配です。理想の住まいづくり、JAホームを参考にして考えたいと思いました。その節はよろしく願います。
(松山市・松本 興八さん)

●いつ地震が来るかわからない今、耐震性、耐久性に優れたお家はすくなくあります。地産地消や他県より優れているものを紹介してほしい。
(今治市・平井 里奈さん)

●今年の梅雨で築140年の我が家もそろそろ悲鳴をあげていそう。特集を見て、写真の家に心を奪われる：それとも大切な住まいをリフォームして新築そっくりさん？に迷う。いつか、いつかと思いつきながら背中を押してくれるのを待っています。
(八幡浜市・岡 葉子さん)

●私たちは物を購入する時に「メイドインジャパンだったら安心」って思ってた。でも、もうその考え方は捨ててしまわなければなりません。手抜き工事や食品偽装などメディアで毎日のように報道されています。安心・安全を手に入れるには、信頼関係が必要です。JAと付けば安心です。これからもクオリティの高い、ニーズに合った、末永く使える住まいを提供してほしいです。
(松山市・楠 裕子さん)

●ふるさとエッセーを読んで。写真にある蝶の切り絵は本当に標本じゃないの？と思ってしまいました。実物を見てみたいです。ずっと目の病気に闘ってきて、大変だったと思います。好きなことを続けるためにも、治療頑張つて、これからもいろんな作品を作ってください。
(松山市・中平 寛子さん)

●統計BOXを読んで。平成27年産ミカンの生産量のことが気になりましたが、消費動向の変化で昭和50年頃は1年で1人25kgだった消費量が、40年後の平成26年には5.6kgになっていく。随分減っているんだなと思いました。
(八幡浜市・米花 佐智子さん)

●クッキングのスイカ料理。生まれて初めて：さつそく材料を揃えて作ってみました。いろいろ工夫をすればこんな食べ方もあるのですね。今夜は珍しいスイカ料理とウナギの蒲焼き。暑い夏をスタミナつけて夏バテもなく元気いっぱい食欲旺盛で元気に乗り切っています。
(西条市・高橋 千代美さん)

●「えひめスイーツコンテスト」毎回受賞者の作品をいろいろな紙面で見ると、美味しそうだなと思うと同時に、こんな県産の農産物もあるのか：と県産農産物の豊富さに驚いています。今年はどんな受賞作品が出てくるか楽しみです。夏も盛り。セミが元気に鳴いています。職場の駐車場から事務所までの道中、痛いほどのセミの鳴き声のシャワーを毎朝浴びています。
(西条市・大西 可奈子さん)

●いつも表紙は、田舎のほのぼのとした懐かしい作品ばかりで楽しみです。いつかイラストレーターのはらゆみさんの特集をお願いします。
(伊予市・亀田 均さん)

今月のクイズ

（株）めいライスは、今年も新米キャンペーンを実施中です。今年のキャンペーンの名称は？

「○○○の新米やってきた！」

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成28年10月19日（当日消印有効）

発表

「あぐりーど」11月号で発表します。

当選者発表

7月号の答えは「（JA）ホーム」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10人の方に図書カード1,000円分をお送りします。

中田 誓子さん（八幡浜市）	阿部 紗弓さん（今治市）
長下 政恵さん（宇和島市）	永井 朋代さん（松山市）
大西 傑さん（松山市）	薬師神貴弘さん（宇和島市）
村越久美子さん（今治市）	矢野 直美さん（大洲市）
阿部 喬子さん（今治市）	森 由佳さん（今治市）

編集後記

★食欲の秋。県内でも、新米・栗・里芋などが収穫本番を迎えます。愛媛県は、27年産生産量でみると、栗は全国第2位、里芋が第5位の産地ということ、県内の消費者にも地元旬の味覚を楽しんでいただけます。一方、米は生産量よりも消費量が多い消費県。特集では28年産米の情勢や集荷・販売対策等を紹介しましたが、県内の皆さんにより多く「えひめ米」を届けるためにも、JA集荷へのご協力をお願いします。

（正直）



NOW NOW

COOKING

今月の素材

ピーマン



肩もお尻もふっくら・もりもり、
ズッシリ肉厚、ツヤツツヤを選ぼう

指導／学校法人愛媛学園（愛媛調理製菓専門学校）大佐古 正子先生

ピーマンの味噌マヨ和え

〈材料・4人分〉	※1人あたり約86kcal
ピーマン	3個
人参	1/5本(約40g)
塩	適量
ジャコ天	1枚
① 麦味噌	大さじ1
マヨネーズ	大さじ2
② 醤油	小さじ1
鰹節	適量

〈作り方〉

- ① ピーマンは縦半分に切って種をとり千切り、人参も千切りにし、さっと塩茹でし、冷水にとる。
- ② ジャコ天は5mm幅に切り、フライパンで炒め、粗熱をとる。
- ③ ボウルに①と②を合わせ、混ぜ合わせた①を加え、さっくりと混ぜる。
- ④ 器に盛り付け、鰹節を盛る。

ピーマンと鶏のカシューナッツ炒め

〈材料・4人分〉	※1人あたり約364kcal
ピーマン	4個
鶏ムネ肉	1/2枚(約200g)
① 酒	大さじ1
塩・コショウ	少々
片栗粉	大さじ1
タマネギ	1/2個
人参	1/5本(約40g)
カシューナッツ	100g
生姜	1カケ
白ネギ	1/2本
サラダ油	大さじ1
② 酒	大さじ1
砂糖	大さじ2
③ 醤油	大さじ2
オイスターソース	小さじ2
ゴマ油	大さじ1

〈作り方〉

- ① ピーマンは縦半分に切り、種をとり、1cm幅に切る。
- ② 鶏肉はひと口大のそぎ切りにし、①で下味をつけ、片栗粉をまぶす。
- ③ タマネギは薄切り、人参は短冊切りにする。
- ④ 生姜と白ネギは1cm角の色紙切りに切る。
- ⑤ フライパンにサラダ油を熱し、鶏肉を炒めて取り出し、④を加えて香りが出たら、③とカシューナッツを加えて炒める。
- ⑥ ⑤に②を加えて、⑤の鶏肉をもどし、①を加えてさっと炒め合わせ、ゴマ油を加える。

ピーマンのピリ辛蒸し

〈材料・4人分〉	※1人あたり約97kcal
ピーマン	6個
ベーコン（スライス）	2枚
プチトマト	8個
オリーブ油	大さじ1
ニンニク（スライス）	1カケ
鷹の爪	2本
黒コショウ	適量
水	100cc
コンソメ（キューブ）	1個
粉チーズ	適量

〈作り方〉

- ① ピーマンは縦半分に切り種をとる。ベーコンは1.5cm幅に切る。プチトマトはヘタをとる。
- ② フライパンにオリーブ油を熱し、ニンニク、鷹の爪を弱火で炒め、香りを出し、ベーコンを炒める。
- ③ ②にピーマンを加えて炒め、水とコンソメ、プチトマトを加えて蓋をし、弱火で蒸し焼きにする。
- ④ 器に盛り、粉チーズと黒コショウをふる。

POM

えひめ逸品柑橘

愛媛はれひめ
サイダー 期間限定



柑橘王国「愛媛」の隠れた逸品をお届け

「はれひめ」は、(清見タンゴール×オセオラ)×
宮川早生の交配種で、2001年に品種登録された
みかんタイプの爽やかな柑橘です。
みかんの甘みとオレンジの香り2つの良さが
楽しめるはれひめ果汁炭酸をお楽しみください。



株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地

TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

(通販専用) <http://www.pom-j.com>

ひめライス新米キャンペーン



えひめの新米 ♪ やってきた! ♪

ひめライスの新米!

ひと味ちがうよー!

1商品で2口
応募できる!

合計

900名様
に当たる!

A
コース

伊予牛「絹の味」黒毛和牛
すき焼き用



100
名様

愛媛の生産者によるこだわりの飼育牛肉。新米のごはんに合う、まろやかな舌ざわりと繊細な旨味。秋冬にうれしいすき焼き用コースを約500gで直送。
[発送内容] 伊予牛「絹の味」黒毛和牛 すき焼き用コース約500g

B
コース

愛媛県産 紅まどんな



100
名様

農家から食べやすい果肉、お口の中で広がる上品な果汁の甘さと香り。「紅色の貴婦人」と称される逸品柑橘を約2.5kgで当選者にプレゼント。
[発送内容] 愛媛県産 紅まどんな 約2.5kg(3Lサイズ8玉〜Lサイズ12玉)

C
コース

愛媛県産 伊達真鯛



100
名様

宇和島で養殖された愛媛ブランドの伊達真鯛。新鮮で油が乗った透明感のある刺身を真空パックでお届けします。
[発送内容] 伊達真鯛約320g、カット加工、真空パック

Facebookははじめました!



▲スマホでアクセス!▲

2016年
キャンペーン
応募期間
8月22日(月) ~ 10月31日(月)

〈お問い合わせ先〉
主催／株式会社 ひめライス TEL089-960-3331

受付時間／10:00~17:00
(土・日・夜日を除く)
お問い合わせ期間／平成28年11月30日まで
キャンペーン内容はホームページからもご覧頂けます <http://www.himerice.jp/> ひめライス

さらに
はすべた方にも!
チャンス!

つやとめりに白飯あり、
黒さに負けないお米です!
愛媛県産
にこまる (2kg)



600
名様

応募方法

「応募シール」または、ひめライスの米袋左上に付いている「ひめマーク」を切り取り、2kg以上を1枚1口(もち米1.4kgなら1枚1口)としてご応募ください。応募ハガキまたは郵便ハガキにご希望の賞品コース(A〜Cコース)を1つ選択し、郵便番号、住所、電話番号、氏名、年齢、購入店、ひめライスに対するご意見・ご感想、あなたのお米の保存方法を明記の上、ご応募ください。

お一人様何口でもご応募いただけますが、ハガキ1通につき1口とさせていただきます。

対象商品 ひめライス全商品(もち米含む)

〒791-3163 伊予郡松前町大字徳丸字五屋敷771-25
株式会社 ひめライス 新米キャンペーン係

応募締切 平成28年10月31日(月) 当日消印有効

当選発表 厳正なる抽選の上、賞品の発送をもって当選にかえさせていただきます。

※ご記入いただいた個人情報の管理は(株)ひめライスが行い、当選者への賞品の発送及び個人を特定しない当社商品情報収集等に利用させていただきます。 ※お客様の個人情報は業務委託先以外の第三者に開示提出することはありません。(法令などにより開示を求められた場合は除く。)



環境に配慮した植物油インク
を使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。